



【加納西サッカー部はこんな場所です】
①自宅の近くでスポーツができる
②地域の仲間と交流できる
③親子で一緒にサッカーができる

加納西スポーツ少年団サッカー部
KANONISHI FOOTBALL

部員随時募集中 お気軽にお問い合わせください
問合せ soccer.kanonishi@gmail.com

加納西スポーツ少年団サッカー部は、加納西小(28名)・三里小(18名)・加納小(6名)・岐阜大学附属小(7名)、その他小学校/未就学(6名)の計65名の子と達が在籍し、加納西小学校グラウンドで活動しています。

夏休み特別練習with加納高校

【U10/U9】 地域連携・高校生が小学生へ一人一人に個別指導



種別を越えた交流・サッカー文化の醸成
7月21日・7月28日に加納高校にて夏休み特別練習を行った。猛暑となった21日は体育館1階「土間」の日陰を利用して、28日は加納高校グラウンドで、小学生と高校生が1人ずつ2人1組となり、主に基礎的な技術練習を行った。一つ一つのメニューを高校生が小学生に対し個別にコツや気を付けることを指導した。
現在は加納高校の部活動指導員で、主に各務原高校で何度も全国大会に導き、日本高校選抜のスタッフも経験され、プロサッカー選手を何人も育成した林幹二先生に講師をお願いした。
U10・U9の選手たちは普段の練習では行わないインサイドパス・インステップキック・ヘディング練習等を行い、ミニボールやバレーボールをつかって、足首の固定や上半身の使い方、ボールの中心をとらえる等の注意点を学んだ。最後の4対4のミニゲームでは小学生と高校生が一緒にチームを組み交流を楽しんだ。
加納高校サッカー部は3月に日本サッカー協会公認Dライセンス(子ども達にサッカーの楽しさを伝えられる指導者を養成することを目的とする)を学校単位で取得しており、学習内容を生かし小学生に接していた。弊部の子ども達は、「優しく教えてくれた」「たくさん話しかけてくれた」「一緒にやってくれた」「次はいつやるの?」等、普段では体験できない高校生の兄さんたちにサッカーを教えてもらい「楽しかった」と口を揃えていた。同じ地域のサッカー仲間として、今後も交流を続けていきたい。(8月6日付岐阜新聞関連記事掲載)

7月19日、ハートフルスクエアGで行われた県協会主催優秀指導者招聘事業に弊部員の保護者・指導者13名が参加し、現U15日本代表コーチ、大畑開による「世界基準の育成」をU17W杯の報告から学んだ。日常の活動の改善や子ども達との接し方を改めて考えさせられた。
7月20日は大畑さんが加納西小学校に来校し、2時間ほど滞在していただき、弊部の様子を見学された。子ども達へ「自分で考えることを大切にしよう」との言葉をいただいた。
練習前の会場準備、サッカーに関わる大人指導者の数子ども達の雰囲気の良いさについて褒めていただいた。指導者の言葉について、直接的な働きかけと間接的な働きかけを区別すること、指導者の「明確なプレーの基準の提示」と「プレーのジャッジ」についてもっと良くなるためのフィードバックを受けた。
昨年度の菅野淳氏(JFAフィジカルフィットネスプロジェクター/U20日本代表フィジカルコーチ)に続き、2年連続で日本を代表する指導者が弊部の活動に足を運んだ。子どもも大人も「学び続ける」ことを大切に、これからも子どもたちのサッカー環境をより良くするよう努力していく。

活動を見た加納西小学校の小川校長は、「地域の人に喜んでもらったり、人のために準備をしたり、仕事をしたりすることは、サッカーが上手になることと同じくらい大事なこと」と子どもたちをたたえた。
弊社では、地域との関わりを通して、責任感や思いやり、仲間と協力する力、人を喜ばせる創造力などを育ててほしいと考えている。柴橋正直岐阜市長も訪れ、サッカー環境について話を聞いたほか、回子を焼く保護者にも声をかけた。
サッカーだけでなく、地域の人と関わり、誰かのために行動する経験。その一つ一つが、子どもたちの豊かな人間性成長につながっている。
地域の祭りを舞台に、子どもたちは「サッカーをする側」「地域を盛り上げる側」へ。多くの地域住民との交流を通して、人と関わり、地域のために行動することの大切さを学ぶ機会となった。

加納・三里サッカー新聞

3号

発行日
2026年10月

焼肉ざくろ
企画・デザイン・印刷
地域に根差した印刷事業
株式会社 南進社
岐阜の注文住宅・分譲住宅・賃貸事業なら
FRONTIER HOME

Regolith
おりじなる六福 御菓子処
養老軒

スポンサー募集
オリジナルピズ10枚
を作成してみませんか。
★企業名、店舗名記載
★HP、SNS等でご紹介
★地域貢献、イメージUP
★一口30,000円
★ご支援お願い致します

地域との関わりを力に！
サマフェスで子どもたち活躍
加納西スポーツ少年団サッカー部の子どもたちが、地域との連携活動の一環として、今年も加納西サマーフェスティバルに参加した。
会場では、陽南中学校のボランティア生徒とともにスパーボールすくいの運営を担当。昨年度から加納西自治会連合会の依頼を受けている回子の販売では、保護者が会場で回子を焼き、来場者に提供した。今年は新たな試みとして、サッカーの楽しさを地域に届けようと、少年用ゴールとミニゴールを使った「キックターゲット」も企画。子どもたちは来場者に声をかけながら、祭りを盛り上げた。
活動を見た加納西小学校の小川校長は、「地域の人に喜んでもらったり、人のために準備をしたり、仕事をしたりすることは、サッカーが上手になることと同じくらい大事なこと」と子どもたちをたたえた。
弊社では、地域との関わりを通して、責任感や思いやり、仲間と協力する力、人を喜ばせる創造力などを育ててほしいと考えている。柴橋正直岐阜市長も訪れ、サッカー環境について話を聞いたほか、回子を焼く保護者にも声をかけた。
サッカーだけでなく、地域の人と関わり、誰かのために行動する経験。その一つ一つが、子どもたちの豊かな人間性成長につながっている。
地域の祭りを舞台に、子どもたちは「サッカーをする側」「地域を盛り上げる側」へ。多くの地域住民との交流を通して、人と関わり、地域のために行動することの大切さを学ぶ機会となった。